

「飛翔」プロジェクト

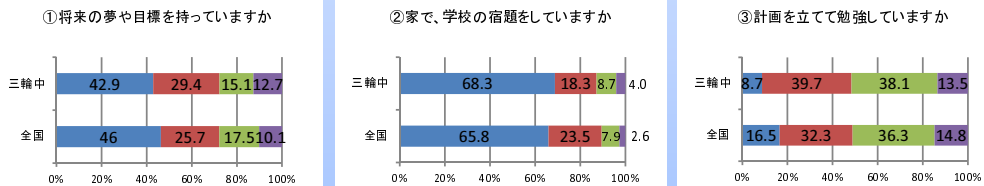
取組概要

3年生を対象に、主体的に進路選択できる生徒の育成をめざして、高校体験や勉強合宿等を行いました。高校体験では、通学や高校の先生の授業等の体験を通して、高校を選択する際の視点やこれからの目標が明確になりました。また、学習意欲も向上し、主体的な進路選択につながりました。

1 学校の課題を探り

- 3年生4学級（128人）
- 教職員47名（含非常勤講師等）、3学年部教職員8名
- 平成27年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙より

将来の夢や目標を持っている生徒の割合が全国平均と比べ下回っています。また、家庭学習に関して、家で学校の宿題をすることはできていますが、計画を立てて勉強をしている生徒の割合が特に低い状況です。進路に対する目標が漠然としており、与えられた宿題はするものの、自ら進んで意欲的に取り組む生徒が少なく、学ぶ意義を十分に理解して学校生活を送っていたり、高校への進学を将来の目標と結びつけて考えたりすることができていない生徒が多いと考えられます。



H27 全国学力・学習状況調査における生徒質問紙結果 [■とても ■やや ■あまり ■全く]

2 目標を立て

- ☆ 基礎的、基本的な知識・技能を身につけさせる。
- ☆ 家庭学習の習慣化を図る。
- ☆ 学ぶ意義を理解し、主体的に進路を選択できる生徒を育成する。
- ☆ 学習サポーターの活用や高等学校との連携等により、学校を中心とした、総合的な学力向上に向けた支援体制を構築する。



学習サポーターの方々

3 鍛えて、ほめてみる

【目標設定】

(1) 進路に対する目標の明確化

- 高校体験
 - 進路に対する展望や明確な目的意識を持つことができるようにするために、高等学校の教育活動にふれ、授業や生活を体験する機会を設け、私立高校6校で実施しました。
 - 将来に向けた自己目標をつくり、その実現のために克服すべき自分の課題を明らかにし、進路計画を立てることを学年の目標としました。生徒は、進路に対する展望や明確な目的意識を持つことができ、高校における様々なコースや学科における体験により、専門性の高さやその大切さ、学ぶことの楽しさを実感できました。



高校体験の様子

【挑む】

(2) 日常の授業への集中・計画的な家庭学習・苦手教科の克服

○ 勉強合宿

苦手教科克服を目標に、1泊2日で行いました。大学生による学習サポーターを活用し、教科別に基礎的な内容の定着が不十分な生徒にマンツーマンで指導をしてもらいました。また、内容だけでなく、学習方法などに対してもアドバイスを受けました。学年全員が同じ部屋で行う学習は、緊張感のある雰囲気で行われ、受験に対する目的意識の高まりにつながりました。



勉強合宿の様子

○ 家庭学習・補充学習

月曜から金曜までノート1ページかプリント1枚を必ず学習することを学年で統一して行いました。月曜日の帰りの会で小テストを行い、基準点に到達できなかった生徒は、放課後補充学習を行いました。ここでも学習サポーターを活用しました。



学びの広場

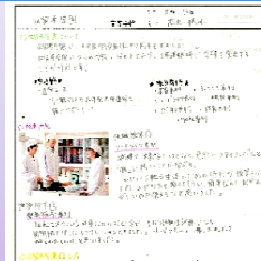
○ 学びの広場

職員室横の廊下には、「学びの広場」を設置し、分からないところを教師へ質問したり、友達同士で学習したりすることができる場を設定しました。一人二人と集まる生徒が増え、休み時間や帰りの会終了後は、学習している姿を多く見るようになりました。

【ほめる】

(3) 振り返りと賞賛

- 高校体験で得られた知識をワークシートにまとめて発表を行いました。発表に対して、教師や友だちから賞賛などを受けることにより、高等学校に対する自分の考え方の変化に気付いたり、友達の進路意識の変化に喚起される目的意識が高まったりした姿が多くみられました。



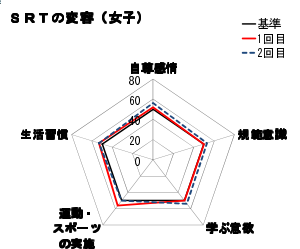
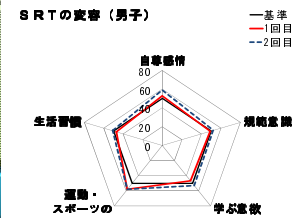
発表に用いたワークシート

<生徒の感想>

- ・今回のような行動力を身に付けていきたいです。
- ・高校にはたくさんの科があり、自分が行きたいと思う科をしっかりと選ばなければならないと強く思うようになった。
- ・高校を選ぶ視点として、△△さんの発表が参考になった。

4 こんな成果があった!

- SRT調査結果から、学ぶ意欲、自尊感情、規範意識のポイントが男女ともに上昇しました。これは、「飛翔」プロジェクトの取組により、いま学習していることが将来の生活や社会につながりが意識化されたこと、また、自己の成長を確認できたことが要因であると考えられます。



5 ココがポイント!

- ① 中期目標と直近の行動目標を明確にすることが大切! 将来の目標(高校入試も含む)を踏まえた上で、今何をすべきか、どこまでできたか、今後何を頑張るかを明確にすることで、学ぶ意欲の向上につながりました。
- ② 個別のケアを視野に入れた組織的な支援体制が大切! 校外も含めた教育資源をネットワーク化し、個々のニーズに合わせたことは、学力向上に効果的でした。外部からの賞賛を得る機会にもなり、自尊感情の向上につながりました。